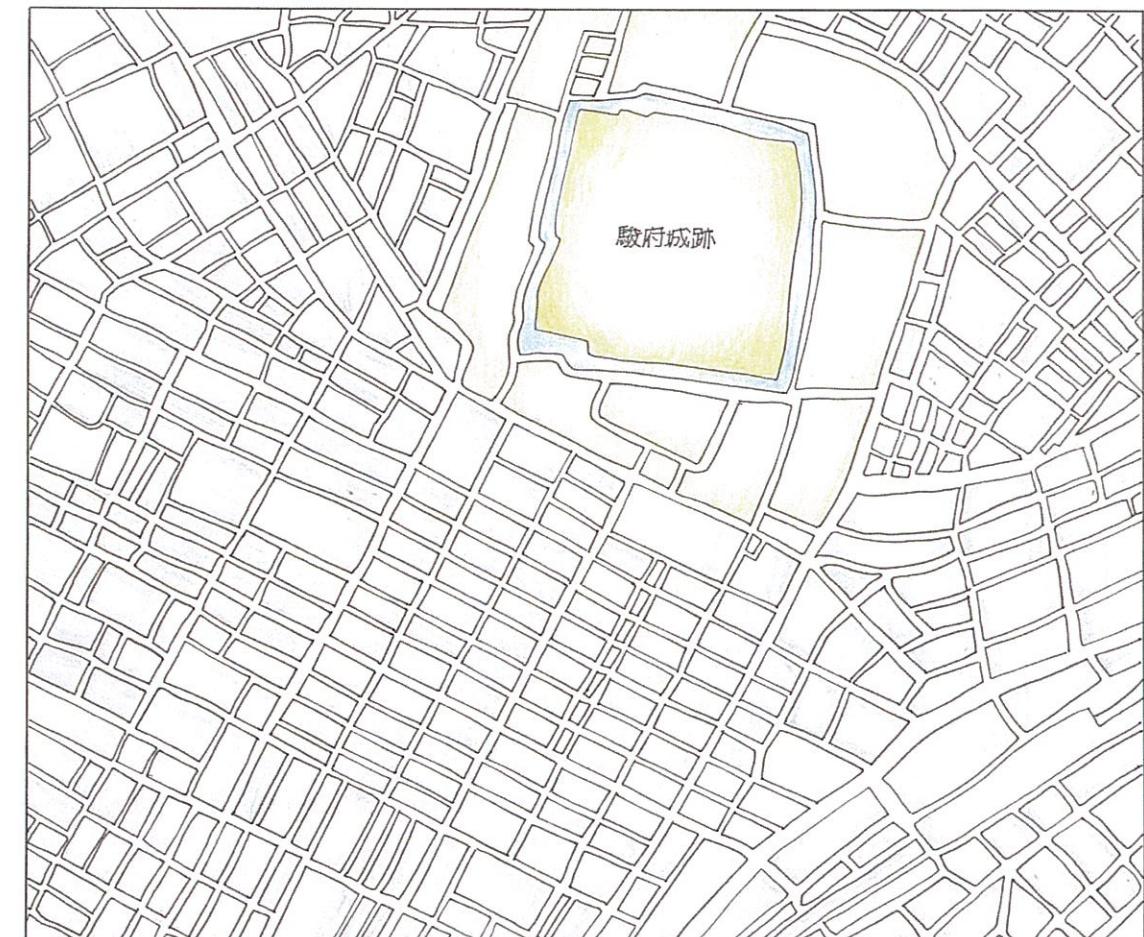
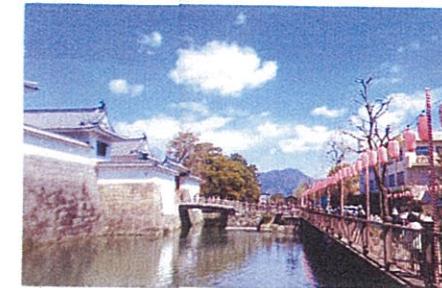
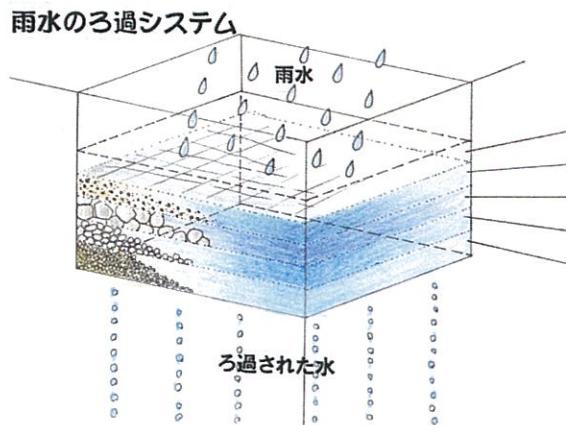


一駿府城から巡る、自然の力と人々の繋がりー

コンセプト

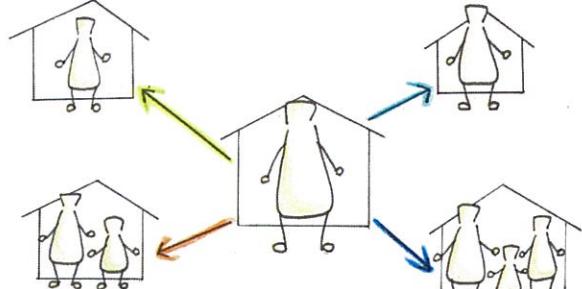
18年後、2030年、私たちの暮らしはどう変わっているだろうか。

人口の増加は進み、電力・ガス・石油などのエネルギー不足や食糧不足は、更に深刻になっているだろう。また、一人暮らしが増えネット社会が進んでいる今、個人と個人は何によつてつながっていくのだろうか？私たちは、そのつながりをまちに循環する、共有によりつくれいくことを提案する。不足しているものは、まちに巡らせ、人・植物・生き物・自然の力で生み出す。そして再び、まちを巡っては消費されたも生み出されるのである。本提案では、まちのシンボルである駿府城跡のお堀の水を街中に巡らせ、自然エネルギーの生産と消費と共に、人とつながるライフスタイルを創造する。



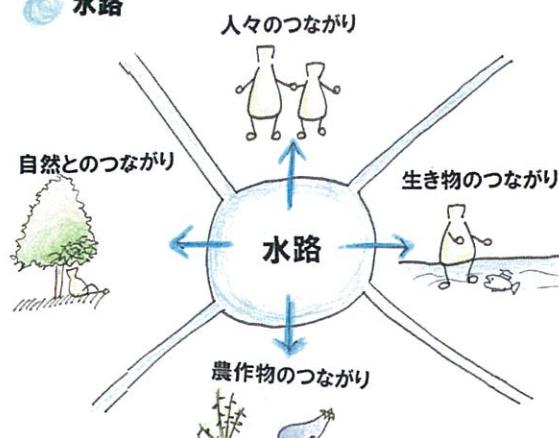
-現況図-

個々のつながり/ものの廻り



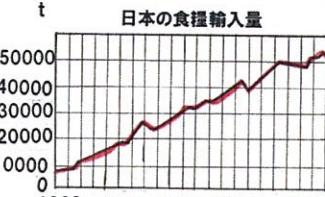
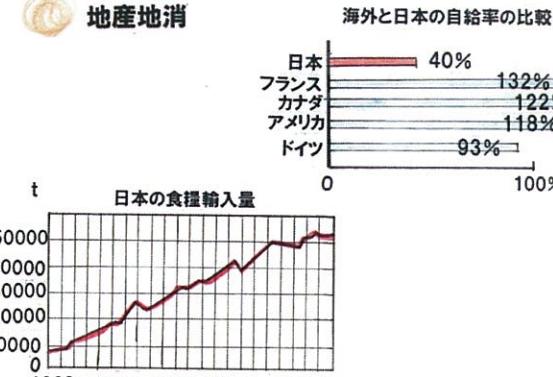
現在では、個人の独立性が強くなり、人とのつながり方は必要最低限でしかない。また web に依存するようになり、人と人が直接会うことが少なくなっている。そこで大切なのは、個人が独立をしつつ、つながることである。このまちへ出れば、地域の人集まる池があり、そこでは年代を問わず会話ができる。また、家族や個人で不要となったものを捨てるのではなく、そこでつながった人たちとの交換をする。それを繰り返していくと、結果自分のもとへかえってくる。もの廻りで、人々のつながりが増えてくる。

水路



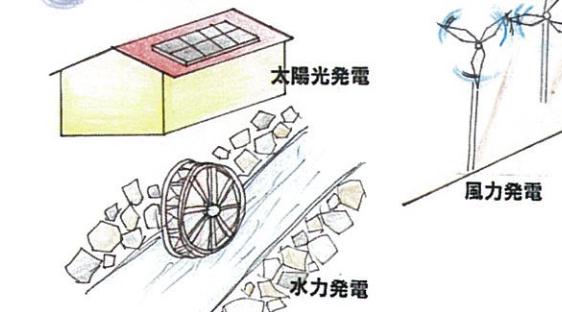
ため池からろ過されたきれいな水がまちに流れる。途中に大きな水たまり場がありそこでは、地域の人たちが集まる。夏場は子供の遊び場、冬場には足湯。また打ち水や畑の水やりなどができるだろう。きれいな水が流れるところにはたくさんの生き物がいるだろう。水路から人・生き物・農作物・自然のつながりが生まれてくるであろう。

地産地消



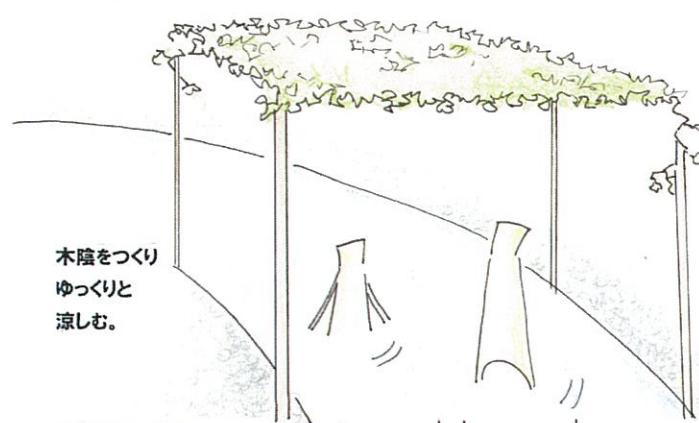
海外からの輸入に頼っている日本
日本の人口は減少しているなか、海外の人口が増加している。このまま輸入し続けてしまうと、海外からの食糧が減り足りなくなってしまう。逆に日本では食糧があまってしまう。輸入に頼らず、地域の畑で作物をつくり地域の人たちと料理し食事をする。地域の人たちが育てていると、どんなものを使ってどのようにして育てているのかわかる。知らない土地でなにもわからない不安よりも、地域の人たちが育てている方が安心できるだろう。

エネルギー



森林とは私たちが生活するうえでもっとも大切なものです。水をたくわえること、酸素をつくること、住む場所をつくること、食べ物をつくること。森林がなければ私たちは生きていけない。森林伐採が増えているのは、私たちが原因である。人口増加により森林が農地や牧草地にかえられ、バイオ燃料が身近になり、地球温暖化による森林火災が増加していることである。また地球環境とのバランスを考えず無計画に伐採すること。森林の伐採をなくしてしまうと私たちは住めなくなるので身近なところに木を増やし、計画的に伐採していくこと。少しでも森林が残るようになるには一人一人が環境のことを考えていくことが必要だと思う。

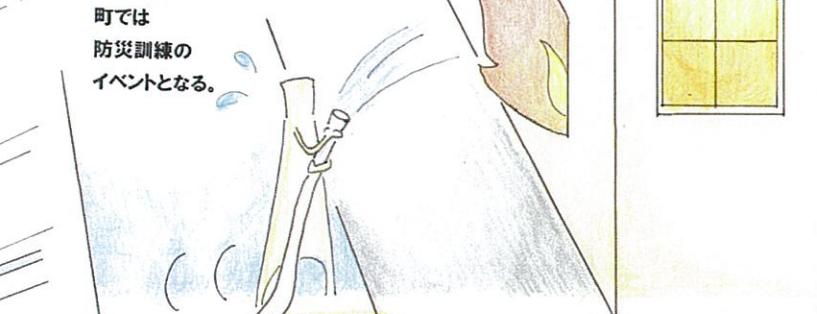
木陰



木陰をつくり
ゆっくりと
涼しむ。

火災対策

一大事のときに川の水をひいてきて消火する。
町では防災訓練のイベントとなる。



田植え

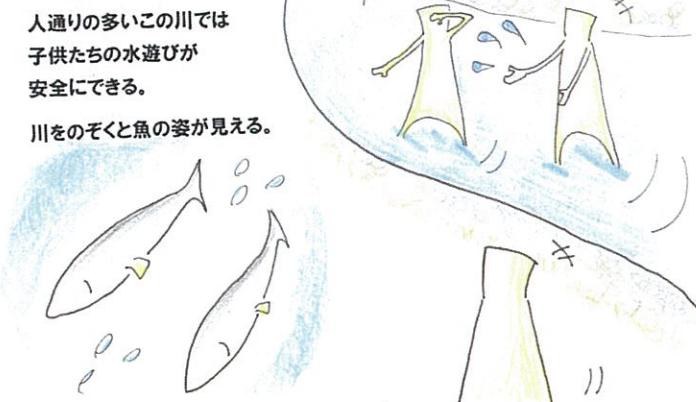


川の水で育てた野菜は、その日のおかずに入れたりおそわけをする。季節を感じることができる。

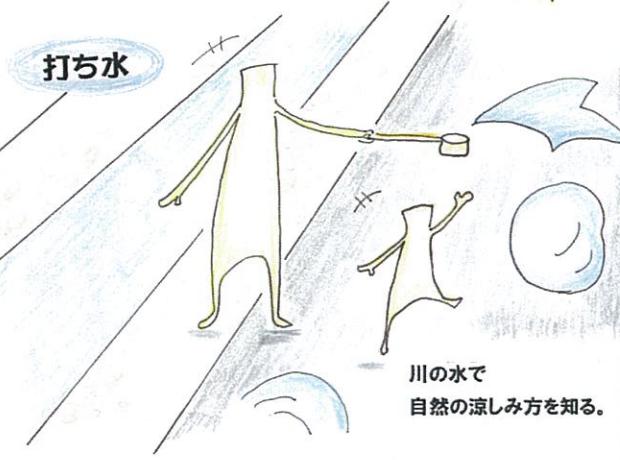
足湯



水路



打ち水



静岡駅

- 木陰
- 足湯
- 水路
- 田植え
- 畑
- 打ち水